

# 豊後高田市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 24年4月～29年3月】

～昭和：昭和初期まで大分県北部の商業都市として栄えたが、近郊都市の発展について行けず昭和の姿のまま時代に取り残されていった。  
 平成～：平成に入り、昭和の姿である街並みを観光資源とした取組を開始。観光客数は年間30万人を超えるようになっている。

## 【1期計画の概要】

○昭和を体験出来る「ロマン蔵」の整備など観光客増加に向けた各取組を実施。

○高齢化が進む中、高齢者が集う施設の整備など高齢者向けの各取組を実施。

※主な事業箇所は次頁の☆印参照。

目標	指標	現況値	目標値(H28FY)
いとおしく懐かしいおまちー飛躍ー	昭和の町の観光入り込み客数	329,968人/年 (H22)	400,000人/年
高齢者が楽しいおまちー進化ー	高齢者交流施設入り込み客数	7,031人/年 (H22)	10,000人/年
市民がうれしいおまちー創造ー	新図書館利用者数	8,389人/年 (H22)	30,000人/年

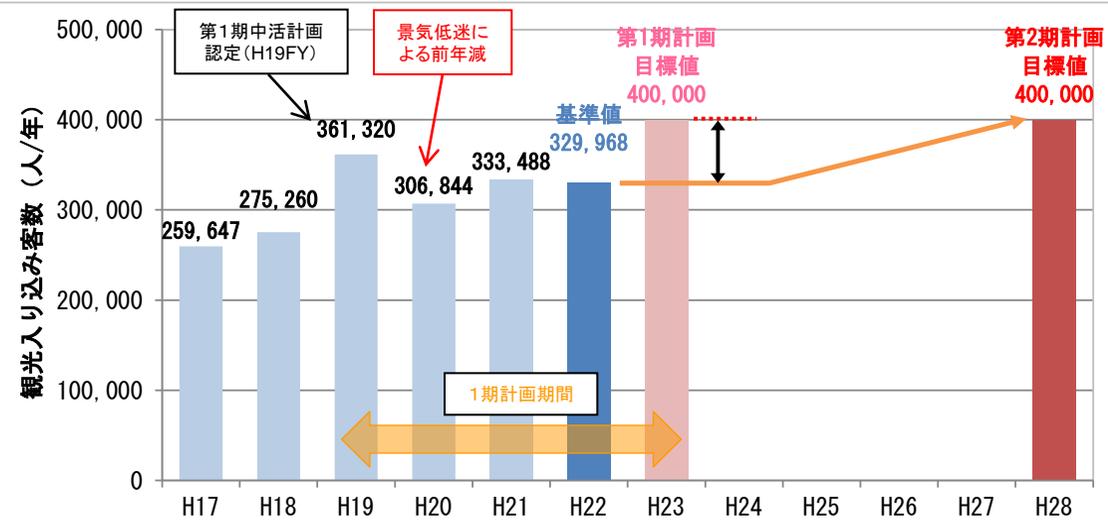
## 【中心市街地を巡る現状】

○観光客増加により、西側商店街の店舗数減が食い止められる等効果が現れてきている。しかし、観光客数鈍化により活性化効果はまだ限定的。

○高齢者のまちづくりというコンセプトが確立。また、東側商店街ににぎわいが戻りつつある。ただし、取組開始から間もないため効果発現はまだ限定的。

○人口が一貫して減少。都市機能を中心市街地に集積させて魅力を高め、より多くの市民の来街、居住を促す必要がある。

【観光入り込み客数推移と目標値】



- いとおしく懐かしいおまちー飛躍ー ⇒ ①高次都市施設整備事業、②各種イベントなど
- 高齢者が楽しいおまちー進化ー ⇒ ③既存高齢者施設の機能拡充、④各種イベントなど
- 市民がうれしいおまちー創造ー ⇒ ⑤図書館建設事業、⑥御玉市民公園整備事業など

# 豊後高田市中心市街地活性化基本計画の事業概要

いとおしく懐かしいおまちー飛躍ー

## ○高次都市施設整備事業 (①)

これまでに昭和を「見る」、「食す」、「体感」が整備され、新たに昭和を「学ぶ」施設を整備する。昭和を理解してもらうことで、より昭和の町を愛し楽しんでもらい、観光客の増加等を図る。



## ○各種イベントの実施 (②)

新しく整備する施設や既存施設を活用したイベントを行うことで周辺地域の活性化を図る。



高齢者が楽しいおまちー進化ー

## ○玉津座銀鈴堂の機能拡充 (④)

1期計画事業である高齢者交流施設(玉津座銀鈴堂)のデイサービス受入数を拡充するとともに、開所日以外の催し物を行うことにより、周辺地域の活性化を図る。

## ○御玉市民公園整備事業 (③)

市庁舎移転後の用地に、高齢者の健康づくりに寄与できる遊具を設置した都市公園を整備する。これにより、1期計画で整備した高齢者用施設との連携を図り、引き続き高齢者に健康を維持してもらうことで周辺地域の活性化を図る。また、市を代表するお祭りの会場とすることで、観光客の誘因も図る。



## ○市庁舎移転事業 (⑥)

耐震強度不足、老朽化等による利便性の低い現市庁舎を移転(一部新築)する。移転先は県総合庁舎。県の財政改革により総合庁舎内の各部署が他市に統合される等周辺の空洞化(衰退の懸念)が生じている。同区域に市役所機能を移転することにより、周辺の活性化を図る。

なお、市庁舎跡地は高齢者用の健康器具を備え、かつ、イベントの実施も行える市民公園を整備する。(③参照)

市民がうれしいおまちー創造ー

## ○新図書館整備事業 (⑤)

老朽化、狭小化した既存図書館を利便性の高い場所に新設移転する。本来の図書館機能の充実に加え、市民講座や読み聞かせ等多様な市民が活用できる都市機能向上施設として整備する。また、観光情報発信機能も兼ね備えることにより、同地域への観光客誘因を図る。なお、既存図書館は生涯学習センターとして活用する。

